

2025 年 6 月 15 日（日）第二礼拝「主に用いられる人」ヨハネ 6 章 1～14 節

イエス様はガリラヤの湖に行かれた時、そこに集まって来た大勢の人の群れに五つのパンと二匹の魚を配り、十分に食べさせ、その祝福の秘訣を弟子たち教えられました。

第一番目、イエス様のところに大勢の人の群れが集まってきた理由です。大勢の人の群れは、イエス様の中にある深いあわれみに集まって来ました。聖書には、羊飼いのいない羊のようである群衆や一人息子が死んだやもめを、イエス様が深くあわれんだと書かれています。あわれみとは、相手の心(痛み、苦しみ、貧しさ等)を共感することです。過越が間近になっていた頃、男性だけでおよそ五千人、女性と子どもを合わせるとおよそ二万人の人々は、エルサレムに行かず、イエス様のところにやって来ました。その理由は、イエス様のあわれみを受けて癒されるためです。私たちもイエス様からあわれみを受けて癒され、救われました。

第二番目、イエス様はあわれみの心を弟子たちに教えようとされました。イエス様はまずピリポを呼び、「どこからパンを買って来て、この人々に食べさせようか。」と質問されました。イエス様は、あわれみの心がピリポにあるかどうかを試そうとされたのです。「めいめいが少しずつ取るにしても、二百デナリのパンでは足りません。」と答えたピリポには、人々をあわれむ心は見られませんでした。しかし、アンデレは少年の持っていた五つのパンと二匹の魚をイエス様に捧げ、集まって来た人たちはそれらを食べて満腹になりました。

イエス様が私たちに求めておられるのは、あわれみの心と愛によって働く信仰です。イエス様の奇蹟はすべてイエス様のあわれみから起こりました。主はあわれみの心を持つ人を用いられます。アモス書にあるように、日本は現在、御言葉を聞くことの飢饉です。ピリポのように不可能なことばかりに注目しているなら、主に用いられません。しかし、アンデレのようにあわれみの心を持ち、自分のもつわずかなものを主に捧げる時、奇蹟が起こるのです。

第三番目、分け与える奇蹟です。イエス様は人々を五十人ずつに座らせて、五つのパンと二匹の魚を分け与えました。弟子たちはイエス様からパンと魚を受け取り、更に、それらが人々の手から手へと渡されていく時、奇蹟が起こりました。この終わりの時代に、私たちはここから学ばなければなりません。自分のわずかなものを人に分け与える時、奇蹟が起こり、豊かに祝福され、経済も祝福されます。「与えなさい。そうすれば、自分も与えられます。人々は量りをよくして、押しつけ、揺すり入れ、あふれるまでにして、ふところに入れてくれるでしょう。…」(ルカ 6:38) ヘルモン山からヨルダン川の水がガリラヤ湖に流れてきて、魚がたくさん生息し、いのちで溢れています。しかし、ヨルダン川の水はガリラヤ湖から死海に流れますが、死海から別のところに水が流れていくことはなく、死海の水は死んでしまいます。受けるだけではいけません。霊的にも経済的にも豊かに与えるなら、奇蹟を体験し、溢れるいのちとなり、終わりの時代に勝利する者となるのです。私たちがこの世に送られた理由は、様々な人々と出会い、主のあわれみを持って自分のもつものを人々に分け与えることです。これが、終わりの時代に私たちが勝利する秘訣です。アーメン！